

報道資料

2008年10月20日(月)

三菱商事・東京工業大学などとの共同プロジェクト

「RE - EVプロジェクト」がグッドデザイン賞受賞

株式会社トステム住宅研究所

トステムやINAXなどの事業会社を擁する株式会社住生活グループ傘下で、住宅FCを全国に展開している株式会社トステム住宅研究所（アイフルホーム）[住所：東京都江東区亀戸1-5-7 / 代表取締役社長 兼 アイフルホームカンパニープレジデント：大竹俊夫]は、三菱商事、東京工業大学などとの共同プロジェクト「RE - EVプロジェクト」(Renewable Energy for Electric Vehicle Project = 再生可能エネルギーを利用した電気自動車向けインフラシステムの研究プロジェクト)に参画しており、この度、「RE - EVプロジェクト」が財団法人日本産業デザイン振興会の主催する2008年度「グッドデザイン賞」を受賞しました。

グッドデザイン賞は、1957年にスタートしたわが国で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度です。経済産業省の外郭団体である財団法人日本産業デザイン振興会が主催し、単に美しさを競うデザインコンペではなく、「優れたデザイン」を社会に普及させていくことで、私たちの生活をより豊かにすることと産業の発展を同時に後押しすることを目的にしたものです。



電気自動車は、走行する際にCO2などの排気ガスを出さないクリーンな乗り物であり、地球温暖化防止の観点から注目されております。「RE - EVプロジェクト」は、太陽光、太陽熱、風力などのクリーンな再生可能エネルギーを活用した電気自動車の充電インフラシステムの構築を目指したプロジェクトで、一般住宅から、オフィス、コンビニ、給油ステーション、高速道路サービスエリアなどに充電機器を配備するとともに、深夜電力の併用などと合わせ、より高効率にCO2排出削減を目指すものです。

三菱商事、東京工業大学などでは、このインフラシステムの実証実験として、東工大の大岡山キャンパスに太陽光発電パネル、太陽熱発電機及び充電システムを設置し、すずかけ台キャンパス、田町キャンパスとの間に電気自動車「i-MiEV」(三菱自動車工業)の試乗車を走行させます。

「グッドデザイン賞」を受賞した「RE - EVプロジェクト」に参画するトステム住宅研究所（アイフルホーム）では、電気自動車ユーザーの自宅を想定した実験住宅として、太陽光発電パネルを設置した「クールアースモデル住宅」を東京都内（葛飾区高砂）に既に建設しており、三菱商事、東京工業大学などと共に研究を推進しています。

「クールアースモデル住宅」では、こうした電気自動車の活用実験のほか、太陽熱を蓄熱する壁、地熱活用の土間、雨水の貯水タンク、屋上緑化、自然の風や光の有効な取り入れなど総合的なCO2削減実験プログラムを実施しております。

トステム住宅研究所（アイフルホーム）では、これらのデータ結果をもとに、次世代の実用モデルとして商品化を進めていきたい考えです。

この件のお問い合わせは下記までお願いします。

（株）トステム住宅研究所

マーケティング部 広報担当 山口まで

電話：03 - 5626 - 8251